



浦和区 市立浦和高等学校 インターアクト部顧問 浜野 清澄

### 1 はじめに

さいたま市立浦和高校インターアクト部は、昨年12月に岐阜で開催された第5回全国高校生英語ディベート大会において、全国優勝を果たし、世界大会への切符を手にした。全国大会では、地区大会を勝ち上がった強豪64校が参加し、「移民政策」をテーマに、激しい議論を交わした。

### 2 世界高校生英語ディベート大会について



世界高校生ディベート大会が、世界48カ国からトップレベルの高校生がスコットランド・ダンディーに集い、

10日間（8月16～26日）開催された。使用言語は英語であり、英語を母国語としない日本人には不利なことはもちろんである。しかし、大会までの半年間は、慶応大学、東京大学、ICUなど多くの方の協力を頂き、準備と努力を重ねてきた。残念ながら予選突破とはならなかったが、世界の高校生との違いは、英語の運用能力と学ぶべき内容の難易度であった。

例えば、以下にあるのは今年出題された論題の一部である。論題の難易度が非常に高く、日本の高校生が学ぶ内容を超えている。

This house would offer dictators immunity in return for leaving power.（独裁者は権力の座からおりる代わりに、免責を与えられるべきである）世界大会ではこのような論題について高校生が英語で8分間のスピーチをする。

世界的な視野に立ち社会的な問題に精通し

ていない限り、決して議論することはできない。また、世界大会では予選8試合のうち4試合は1時間前に論題が発表となる即興型のディベートとなる。政治問題、環境問題、医療問題、宗教問題、地域紛争、歴史問題、倫理問題など、出題される内容は予測できず、あらゆる分野の知識と、論点を整理しておかなければならない。最も大事なことは、これらの諸問題について、自分の意見を持ち、英語でスピーチをしなければならないということである。

### 3 世界大会を終えて

この世界大会で生徒たちが得たものは大きかったと確信している。学校教育で取り上げることが少ない民族問題や宗教問題、そして人の権利と政府の役割といった政治的な問題、命の価値と社会の利益といった世界的なテーマについて、生徒たちは哲学・倫理的に物事を把握することができるようになった。

また、文化、言語、宗教、習慣など、あらゆる点で異なっている世界中の高校生たちが、お互いの相違点を理解している姿勢は、本当の意味での国際交流であると強く感じている。今後、ディベートがより一層、高校英語に普及していき、生徒の英語運用能力の向上に貢献できればと考えている。

